

同窓会報

同窓会会長挨拶



同窓会長
河邊 勝己

盛夏の候、会員の皆様には益々の御健勝のこと御喜び申し上げます。日頃は同窓会活動に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成十七年度同窓会総会もこの五月二十九日、理事役員、地区役員さんの出席にて開催され、事業報告、資産、決算報告が承認されました。今年度は役員改選の年、役員も多くの改選となり、新しい役員と共に、同窓会運営に取り組んでまいりたいと思っております。



校長
細井 直樹

二十七年間本校にご勤務になり、三月末で定年を迎えられ「勇退されました中村勝校長先生に変わり、豊橋東高校より新任校長として着任いたしました。不慣れであり多々ご迷惑をおかけすると思っておりますが、全力で渾美農業高校のために尽力いたします所存でありますので、宜しくお願いたします。

さて、同窓会の皆様方には日ごろより、本校の教育に絶大なご支援ご協力をいただき心より感謝申し上げます。この紙面をお借りし母校について、最近における学校の様子やお願いしたいことを書かせていただきます。

発行
愛知県立渥美農業高等学校
同窓会事務局

TEL 0533-122-0406
FAX 0533-122-6462

長と二十七年間勤め、この地の農業人の育成に頑張っていたいただきました。当日の会には〇〇人を越す同窓会、農協、行政、PTA、教え子が出席し、感謝の気持ちで送ることが出来ました。

教頭先生の時から始まったオランダとの国際交流について、その感慨の思い出を話し、今まで派遣された生徒のこれからの活躍に期待していることでした。先生には今後共渥美農業に目を向け御尽力をお願い致します。

この国際交流事業も、本年第八回を迎え、先生一名、生徒九名の派遣団がこの五月三十日出発。六月十日豊橋駅に無事帰国。生徒の晴々とした自信に満ちた顔を見て、嬉しい気持ちになりました。同窓会PTA、地域の御理解で始まったこの素晴らしい事業は、この交流研修への参加により、互いの信頼、気遣い、言葉や生活の違いの中で、不安を越え、たくましく前向きになった生徒。参加した生徒だけでなく、そのことが学校全体、地域に広がることを目的だと思っております。

さて、学校開校以来五十五年目を前に、とおりであり、新しい陣容を整えて新年度のスタートをきっております。

六月上旬、毎年同窓会の多様なご協力により実現しておりますオランダの姉妹校への生徒派遣は、お陰をもちまして無事に終えることができました。詳細については裏面に報告のとおりですが、参加生徒はオランダの農業や文化に触れ、ひとまわり大きくなって自信に満ちた元気な笑顔で帰国しました。

部活動では、新聞紙上でも「存じ」とお知り、野球部が昨年の後半からたいへんな活躍をしております。春の東三河大会では準優勝、六月の全三河大会では三位決定で敗れたもののベスト四を確保しました。また、陸上部は百十メートルハードルで三年生の渡辺弘基君が東海大会に出場し、卓球でも中部日本選手権大会（金沢）に二年生の井本貴裕君が出場しました。そして、ソフト部も二年連続の県大会進出を果たしました。文化部では吹奏楽部が大勢入り、立派な演奏をフラーウィフエスタや式典行事や各種大会等で聞かせてくれ、好評を得ています。

農業クラブにおいても、プロジェクト発表の食料部門が最優秀、文化・生活部門が優秀、家畜審査競技の種豚の部で最優秀など活躍しています。次に、学校を取り巻く環境と本校のおかれた状況についてお話し申し上げます。十月より田原市として一体化する渥美



田原市議会議員
伊与田知養

夢ふくらむ(新田原市)

昭和32年卒
サラリーマン16年
宅地建物取引業自営25年
議員11年目(議員専念)
零細農業兼業

同窓会の皆様方におかれましては益々ご健勝にてお過ごしのことと心からお喜び申し上げます。

このたびは会報に寄稿する機会を与えていただきましてありがとうございます。議員としての活動の一端を申し上げます。議員としての活動の一端を申し上げます。

戦後の日本は、先進国に追いつけ追い越せと懸命に働きその頑張り、経済においては、ドルショック、二度のオイルショックなど見事に克服。経済においては大国となりましたが、増大する金融資産の運用には、ノウハウも実績もなく、欧米の巧みな戦略の前に屈し、バブル経済の崩壊へと繋がりました。

この対策をどの内閣も懸命に図りましたが、景気の浮揚はおろか、デフレ経済へと陥りました。歴史的に見てデフレ経済の克服は十五〜二十年の年月が必要といわれています。

小泉内閣になって四年経過しました。ここの二年の構造改革の進展が成否を決める、平成十七年四月のペイオフ解禁も混乱なく実施され、雇用過剰・設備過剰・債務の過剰が解消へと進み体質強化と収益力がついてきました。

「構造改革の進展が成否を決める」政府も、地方六団体も真剣に取り組み、平成十七、十八年は重要な二年間となる。特に以下の三つの課題を重視する必要があります。

- 1、小さくて効率的な政府への取り組み。(官から民へ・国から地方へ)
- 2、新しい躍動の時代を実現するための取り組み、少子高齢化とグロ



中村 勝

農業発展と渥美農高 同窓会の活躍を祈る

私は、本年三月末日をもって三十七年間の教員生活を終えることになりました。とりわけ渥美農高での二十七年間は私にとって、人生そのものであり、農業教員として大変幸せなときでした。この紙面を借りまして同窓会の皆様や地域の方々のご支援に心より感謝し御礼申し上げます。

さて、昭和五十三年頃のこの地といえば、国道二五九号線沿いの杉山地区は水田のなかに養豚団地があり、赤羽根町高松付近は露地畑が広がり、渥美町高木地区には葉たばこ栽培されていたことを思い出します。今では施設温室や大型畜舎ができ、一方で休耕地があららこちらに見られるようになりました。この間、農業自営予定者は農業・施設園芸科生徒の六十五％から四十％余へと減少し、今後が気掛かりです。

社会の動きも右肩上がりの経済が、逆の発想で考えることが必要な時代になりました。食料の多くが輸入され、急速な情報化が進み、その利用範囲は農業においても例外ではなくなっています。国際化の時代でもあり、世界の動きが普段の生活にすぐに影響する時代です。したがって母校の国際交流教育の成果が期待されます。

昨今、「食育」とか「環境」とか言われるように、農業・林業がいかに大切であるかが問われ始めています。かの二宮尊徳翁は「世の中で法則とすべきは、天地の道、親子の道、夫婦の道、農業の道という四つの道だ。この道は、農に両者が双方ともに完全な道である。どんなことでも、この四つの法則を規範とすれば、間違いはない」と言っております。

どうか農業の振興に力を発揮され、地域文化を大切に、渥美の地が文化の理想郷となるよう願ひ、同窓生の皆さんの活躍を祈ると共に、渥美農高への支援をお願いし、退職のご挨拶といたします。

